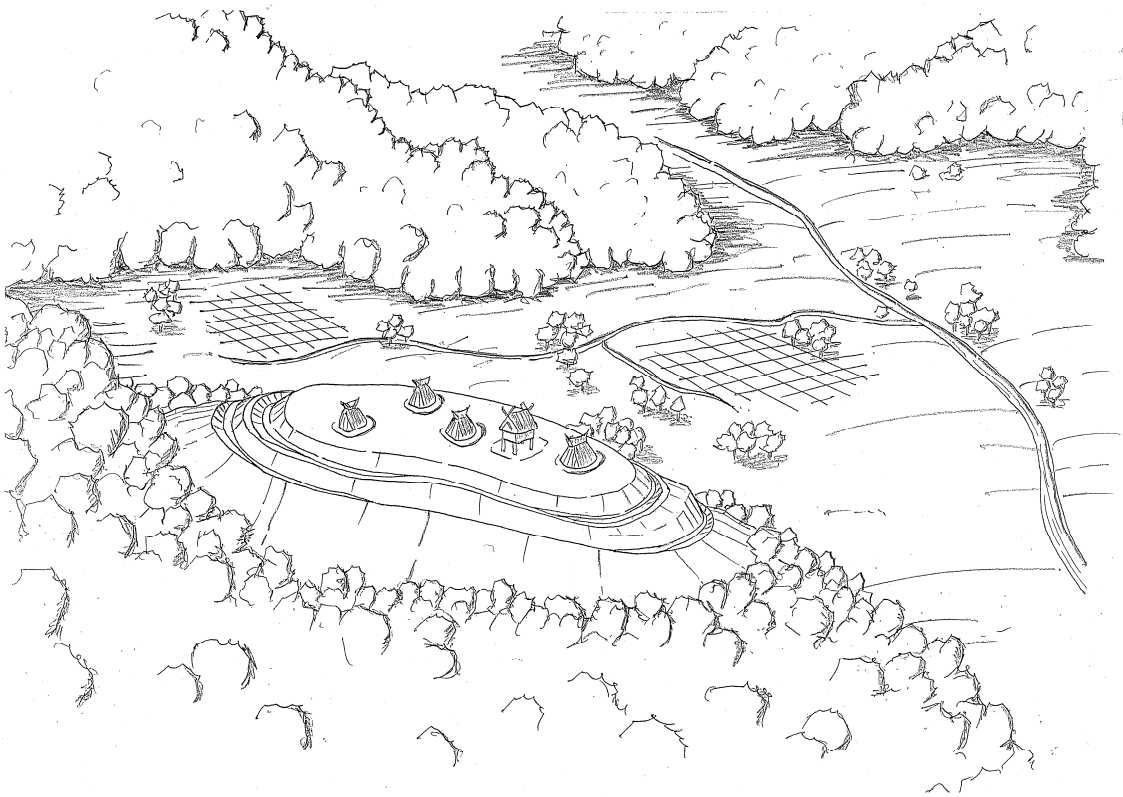


片上の夜明け

文殊山の懷に抱かれたこの片上地区において人々の生活が始まったのはいつからなのでしょう。はっきりしたことはわからないのですが、かつて文殊山山頂の岩陰から縄文時代の土器(鉢)片が採取されたようで、実に4千年以上前のものと推測されています。それにしてもどのような目的で山を登ったのでしょうか。山の神へ木の実や水を供えたのか、それとも木の実を採って持ち帰るのを忘れたのか…想像はつきませんが、いずれにせよ縄文人の足跡が確認されていることは確かで、今も昔も文殊山が母なる存在であることに変わりはないようです。

鯖江市教育委員会文化課 深川義之

(参考 青木豊昭「文殊山とかたかみの歴史」『文殊山とかたかみ』)



高地性環濠集落イメージ図